

平成28年秋の外国人叙勲 ジョン・ベイナー元下院議長の旭日大綬章受章

平成28年11月3日
在米国日本大使館

平成28年11月3日（日本時間）、日本政府は、平成28年秋の外国人叙勲として96名の受章者を発表し、この中でジョン・ベイナー元米連邦下院議長が叙勲されることが公表されました。同氏は、日本の総理として初めて行った安倍総理による米連邦議会両院合同会議演説を実現させる等、日米関係の発展・深化に寄与した功績が認められ、旭日大綬章を受章することとなりました。

- 賞賜： 旭日大綬章
- 功績概要： 日本の総理として初の米連邦議会両院合同会議演説の実現等により日米関係の発展・深化に寄与
- 氏名： ジョン・アンドリュー・ベイナー（John Andrew Boehner）
- 主要経歴：
 - 元 連邦下院議長
 - 元 連邦下院議員

ベイナー元議長は、日本と非常に強い経済関係を有する米国オハイオ州選出の連邦下院議員を、約25年間にわたり務めてきました。日本はオハイオ州における最大の海外投資国とされ、日系企業の事業所約460か所が同州にあり、約74,000名の地元雇用を創出しています。ベイナー元議長の選挙区であった同州第8区においても、自動車関連企業を中心に日系企業の事業所約50か所により、約7,500名の雇用を創出しています。このように地元選挙区における日本との深い経済的つながりがベイナー元議長の政治思想にも強く影響し、強固な日米関係に対する深い認識につながりました。

平成27年4月、時の下院議長として安倍総理を米連邦議会両院合同会議演説の場に招待した人物こそ、まさにベイナー元議長でした。両院合同会議において行われた外国要人による演説は実に110回以上に上るにもかかわらず、これまで日本の要人が両院合同会議演説を行ったことはありませんでした。ベイナー元議長の招待により、安倍総理による、日本の総理として初めての歴史的な両院合同会議演説が実現するに至りました。

た。両院合同会議演説はそれほど頻繁に行われるものではなく、多い年でも5回程度しか行われず、全く行われない年も少なくありません。同演説に外国要人を招待するか否かは下院議長の特権事項とされ、真に重要と認められた要人のみが招待されます。日米同盟の重要性を深く認識するベイナー元議長は、戦後70年という節目の適切なタイミングで安倍総理を招待しました。

また、ベイナー元議長は、環太平洋経済連携協定（TPP協定）を始めとする貿易協定の迅速な議会承認を可能とする貿易促進権限法案（TPA法案）の審議を強力に推進しました。TPPは、世界の約4割のGDPを占める巨大な経済圏を生み出すだけでなく、幅広い分野で21世紀型の高い基準を確立するとともに、アジア太平洋地域の礎石たる日米同盟を強化するという戦略的意義を有します。安倍総理による両院合同会議演説の2か月後、ベイナー議長はTPA法案の下院本会議討論において安倍総理演説を引用しつつ同僚議員に対しTPAへの賛成を呼びかけました。TPA法案の審議過程は非常に険しいものでしたが、ベイナー元議長の強力なリーダーシップの下、最終的に同法案は成立に至りました。結果、TPP交渉も、同法案が成立しておよそ3か月後の平成27年10月5日に大筋合意に至りました。

第53代連邦下院議長として約5年間にわたり議会を牽引し、議員引退後の現在もなお米国政界に強い影響力を有するベイナー元議長の旭日大綬章受章により、日米関係が今後一層発展・深化していくことが期待されます。

(了)